

徳島の留学生交流

International student exchange in Tokushima

留学生と地域社会との交流をめざして

か
ず
ら
ば
し

2 0 1 4

徳島地域留学生交流推進協議会

International Student Exchange in Tokushima

目 次

○ 寄稿		
鳴門市	-----	1
小松島市	-----	3
○ 留学生への支援事業	-----	4
○ 留学生交流事業	-----	8
○ 徳島地域の外国人留学生受入の現状	-----	15
○ 留学生の声		
鳴門教育大学大学院学校教育研究科2年 游 申芳 (台湾)	-----	17
鳴門教育大学教員研修コース アレハンドロ ヘルナンデス ピネダ (ホンジュラス)	-----	18
四国大学文学部日本文学科3年 劉 馨懌 (中国)	-----	19
四国大学文学部日本文学科3年 劉 容 (中国)	-----	20
徳島文理大学保健福祉学部人間福祉学科1年 鄒 鳴 (中国)	-----	21
徳島工業短期大学自動車工業学科1年 許 誠瀚 (中国)	-----	22

○ 留学生の声

阿南工業高等専門学校電気電子工学科5年 ムハマド イザット ビン ラジム (マレーシア)	-----	24
阿南工業高等専門学校機械工学科5年 モハマド アミル ビン サレウ (マレーシア)	-----	26
阿南工業高等専門学校機械工学科5年 グエン アン トウアン (ベトナム)	-----	27
徳島大学大学医科学教育部博士課程4年 董 冰子 (中国)	-----	28
徳島大学工学部知能情報工学科3年 ヌルル アジラ ビンティ アブデウ アジス (マレーシア)	-----	29

姉妹都市交流 40 周年を迎えて

鳴門市長 泉 理彦



本市は今年、ドイツ・リューネブルク市との姉妹都市盟約締結 40 周年を迎えました。第一次世界大戦時に板東に開設された、板東俘虜収容所のドイツ兵と、地元住民との交流がきっかけとなり、本市とドイツの交流は始まりました。

この国際的友好を発展させ、後世に伝えようと、昭和 49 年にリューネブルク市との姉妹都市交流が始まりました。リューネブルク市は、本市と同じく製塩で栄えた街であるとともに、ほぼ同等の人口規模を有し、互いに優れた観光資源があるなど、様々な共通点を有しております。

リューネブルク市とは、言葉の壁や地理的な距離に影響されることなく、今日に至るまで、様々な市民交流が活発に繰り広げられています。中でも姉妹都市交流事業の中心となっているのが、親善使節団の相互派遣です。鳴門日独友好協会とリューネブルク独日協会が中心となり、両市はそれぞれの市民から構成された使節団を、隔年で相互に派遣しており、これまでの 40 年の間に 1,300 人以上の両市民が、互いの姉妹都市を訪問し、友好を深めてきました。



そして今、両市が力を入れて取り組んでいるのが、青少年の交流です。これまでの使節団は、大人の参加者が中心でしたが、若い世代にも姉妹都市交流に参加してもらおうと、昨年度より新たに使節団に青少年枠を設け、現地でのホームステイや学校訪問を通じて国際理解を深める成果が生まれております。リューネブルク市を訪問した本市青少年 8 人は、初めてのドイツでの生活に大いに刺激を受けて帰国しました。帰国後、「もっと英語を話せるようになりたい」「ドイツ人の



ように積極的に授業で発言をしたい」というような前向きな感想が多く聞かれ、学生時代に外国文化に触れることがいかに有意義であるか、改めて知ることになりました。

また、本年10月には、リュウネブルク市から12人の学生が本市を訪れ、2週間にわたって日本人ホストファミリーの元で生活しながら、市内の中学や高校で授業に参加しました。



若い世代の海外や異文化に対する興味が薄れつつあると言われる今、本市の姉妹都市交流におけるこうした青少年交流は大きな意味があるものと考えており、今後も継続的に国際交流の機会創出に努めたいと考えております。将来的に両市の青少年が姉妹都市交流を盛り上げるとともに、グローバルな舞台に臆することなく挑戦し、幅広い視野を持って活躍してくれることを期待しています。

「かずらばし」2014 に寄せて

小松島市長 濱田 保徳

徳島地域留学生交流推進協議会会報「かずらばし」2014 の会報発行にあたり、心よりお慶び申し上げます。

貴協議会におかれましては、県内における留学生の受け入れ促進、交流活動の推進とともに地域住民の国際社会への増進に寄与することを目的に活動を継続され、年齢を問わない新たな地域創生に取り組んでおりますことは、関係者皆様のご努力の賜物であり、改めて敬意を表する次第であります。

さて、わが国を取り巻く環境は「ボーダーレス社会」とも言われるとおり、多様な価値感や文化が混在する中、広い視野と異文化との共生が求められ、食の安全や感染症対策、労働者の受け入れなど多岐にわたる課題解決をはかる上では言葉の理解やコミュニケーションを通して互いの国を知ること欠かせないものであります。



本市におきましても、夏休み時期に留学生と地域の子どもの交流により、様々な体験を通して異文化を知る機会を設けるとともに、学校現場においても外国語指導助手が全ての小学校を巡回し、生の英語を通じて会話能力の向上に努めております。また、港湾都市として

の立地特性を生かし、木材関連業の製造・加工とともに物流の一大拠点として韓国への定期便就航をはじめとする輸出入、さらには来年度、外国船籍の大型客船が着岸を予定するなど、これまで以上に海外とのつながりが強くなると考えており、今後も取り組みを進めてまいります。

結びとなりますが、貴協議会の今後さらなる発展と会報「かずらばし」が発行回数を重ねることを祈念申し上げ、私からのお祝いの言葉といたします。



○留学生への支援事業

1 留学生に対する奨励事業

徳島地域留学生交流推進協議会では、留学生の一時帰省旅費や、特に臨時の資金を必要とする場合に次の表の範囲内で貸付を行っています。貸付を希望する人は所属大学の留学生担当係を通じて事務局まで申し込んでいただくことにしています。

区 分	貸 付 金 額	備 考
一時帰省旅費	帰省旅費（エコノミークラス）の片道相当額	帰国後6ヶ月以内に一括又は分割返済
特別貸付	10万円以内	6ヶ月以内に一括又は分割返済

2 ホストファミリープログラムの実施

徳島地域留学生交流推進協議会では、(公財)徳島県国際交流協会と共催し留学生をホストファミリーの家庭へ受け入れ、家族ぐるみの交流を行うことにより互いの文化の交流を深めるとともに、留学生が疎外感を感じることなく徳島での生活をより快適に、有意義に過ごせるよう支援することを目的として実施しています。このプログラムでは、宿泊を伴うホームステイと宿泊を伴わないホームビジットがあります。

ホストファミリーの紹介を希望する人は所属大学等の留学生担当係を通じて事務局まで申し込んでください。

また、ホストファミリーとなっただけの方を広く募集しています。申し込み方法等の詳細は(公財)徳島県国際交流協会又は事務局までご連絡ください。

3 生活用品の無償提供

徳島地域留学生交流推進協議会では、各国際交流団体の協力を得て、交流団体の会員等から生活用品を無償提供していただき、各大学等の留学生を対象とし配布することとしています。

4 留学生のための奨学金等

名称	給付額	人数(平成25年度)	備考
徳島大学国際教育研究交流資金	月額30,000円又は 50,000円	徳島大学 19名	
藤井・大塚国際教育研究交流資金	月額30,000円又は 50,000円	" 22名	
徳島大学若葉会奨学基金	年額200,000円又は 150,000円	" 2名	
徳島大学卒業生同窓会推薦留学生奨学金	月額100,000円	" 2名	
ロータリー米山記念奨学会奨学金	月額140,000円又は 100,000円	" 3名	
公益信託三木武夫国際育英基金	月額25,000円	" 2名	
財団法人日揮・実吉奨学会第2種給与奨学金	年額500,000円	" 2名	
ドコモ留学生奨学金	月額120,000円	" 1名	
大塚敏美育英奨学財団	年額2,000,000円又は 1,500,000円	" 2名	
佐川留学生奨学財団	月額100,000円	" 1名	
藤井国際奨学財団	月額50,000円	" 1名	
徳島ゾンタクラブ	年額100,000円	" 1名	
上原記念生命科学財団	月額150,000円	" 1名	
財団法人平和中島財団	月額120,000円	" 1名	
似鳥奨学財団	月額110,000円	" 1名	
鳴門教育大学私費外国人留学生奨学金	年額32,000円	鳴門教育大学 17名	
大学間交流協定に基づく交流学生奨学金	月額5,000円	" 6名	
鳴門ゾンタクラブ外国人女子奨学金	年額200,000円	" 1名	
公益信託三木武夫国際育英基金奨学金	年額300,000円	" 1名	
ロータリー米山記念奨学会奨学金	月額140,000円	" 1名	
授業料免除	年額588,000円(1年)	徳島工業短期大学 6名	70%免除
	年額616,000円(2年)	" 5名	70%免除
徳島工業短期大学外国人留学生奨学金	88,000円(1回のみ)	" 2名	国家試験合格者

5 その他の支援事業

団体名	事業内容
徳島大学	日本語補講 日本文化・企業見学旅行 留学生スキー旅行 新入学留学生ガイダンス、徳島東・西警察署による交通安全等オリエンテーション 生活支援(留学生住宅総合保障の加入金補助、渡日一時金の支給) 交換留学生への自転車の貸出
鳴門教育大学	外国人留学生を支援する基金－火災・風水害の被害、病気・事故による入院への支援、自転車購入費用補助、JLPTの受験料補助 日本語補講(入門クラス、初級クラス、中級クラス、上級クラス)、日本語能力試験対策講座 外国人留学生学外研修(日帰り)－文化施設訪問、体験学習等 外国人留学生学外研修(1泊2日)－県外での日本文化体験、工場見学等 日本文化体験－折り紙、日本の歌、染色、ちよんかけごま、書道、大正琴、着付、茶道 外国人留学生新入生オリエンテーション 鳴門警察署による交通安全オリエンテーション 教員研修留学生研究発表会・修了式(本学での1年間の研究成果の発表)
四国大学 四国大学短期大学部	留学生オリエンテーション(資格外活動、各種奨学金等に係る手続きの説明) 生活及び進路相談
徳島文理大学・ 徳島文理大学短期大学部	留学生に対する日本語授業、日本語能力試験対策講座(週1回) 徳島東警察署による交通安全・防犯講話
徳島工業短期大学	生活用品(冷蔵庫、洗濯機、自転車)の貸与 入学祝金の支給 留学生後援会からの誕生祝金の支給
阿南工業高等専門学校	留学生に対する日本語補講 留学生に対する日本事情補講 留学生に対する数学・専門科目補講 留学生に対する生活必需品購入指導 留学生(短期留学生)に対する英会話指導
(公財)徳島県国際交流協会	日本語教室 外国人生活相談 外国人子育てサロン(託児つき日本語教室) 多言語情報提供(生活情報誌、外国図書、新聞、雑誌ほか) 多言語電話窓口相談 防災意識の啓発(防災ハンドブック配布、出前講座開催ほか)
徳島市国際交流協会	談話室運営 生活用品貸出 情報提供(ニュースレター、図書、新聞) 相談窓口の開設 語学講座(日本語・英語・仏語)の運営

5 その他の支援事業

団体名	事業内容
小松島市国際交流協会	生活物資支援 日本語教室の運営(夜間開催) 国際交流みかん狩り 託児付き日本語教室の開催(インターナショナル子育てサークル ももたろう) 外国人向け和食料理教室
阿南市国際交流協会	留学生のホームステイ先を提供 外国人との交流 バス研修の誘い 日本語教室の開講 料理教室を開催
徳島ゾンタクラブ	留学生への生活用品の提供
徳島ユネスコ協会	留学生への生活用品の提供

○留学生交流事業

平成26年度交流事業

主催団体等名	実施時期	事業名	事業の概要
(公財) 徳島県国際交流協会	7月	外国人による日本語弁論大会	在県外国人の率直な意見を聞くとともに、質疑応答などを交えて県民との交流を図る。(徳島地域留学生交流推進協議会共催)
	8月	阿波おどり交流事業(国際交流連・あらしわ連)	阿波おどりを外国人に紹介するとともに県民との交流を図る。(徳島地域留学生交流推進協議会共催)
	9月	防災センター・スタディ・ツアー	在住外国人を対象に防災センターでの災害疑似体験、南海トラフ巨大地震をはじめとした防災意識啓発を図る。
	11月	ホームステイ・ホームビジットプログラム	日本の家庭生活を味わってもらうことにより、日本の文化に触れ、異文化理解や相互理解を図る。(徳島地域留学生交流推進協議会共催)
	通年	国際理解支援講師派遣事業	在県外国人等を講師として小・中・高等学校等に派遣し、青少年への国際理解を深める。
徳島市国際交流協会	7月	初夏のサイクリングとBBQ	国際交流の集い(月見ヶ丘海浜公園までサイクリングをし、バーベキューを楽しむ)
	8月	阿波踊り	国際交流の集い
	10月	剣山登山	国際交流の集い(西日本第二の高峰、剣山への登山にチャレンジ)
	11月	アイススケートと大窪寺	国際交流の集い(アイススケートへの挑戦と四国八十八カ所結願の霊場「大窪寺」の散策)
	12月	年忘れボーリング大会	国際交流の集い
	2月	新春・国際交流パーティー	国際交流の集い(立食、各国演芸、のど自慢大会、ダンス、ビンゴゲーム等)
小松島市国際交流協会	11月	国際交流みかん狩り	留学生と市民との交流(みかん狩り、交流パーティー)
阿南市国際交流協会	5月	通常総会・講演会	留学生及び在住外国人と市民の交流(ユネスコ遺産について)
	6月	日本語教室受講生との交流	在住外国人と市民の交流(おにぎりPARTY)
	10月	バス研修	留学生及び在住外国人と市民の交流 讃岐ぶらり(外国人と交流しながらうどん打ち体験)
	11月	料理教室	留学生と市民の交流(留学生からモンゴル料理を覚えてもらう)
北島町国際交流協会	5月	留学生歓迎パーティー	留学生と住民との交流
	11月	外国料理講習会	料理を通じての国際交流
徳島YMCA	7月～8月	ICCPO(インターナショナルキャンパカウンセラーin大阪)	韓国・香港・台湾の青年10名がYMCA阿南国際海洋センターにて、キャンパカウンセラー体験を行い、県内外の多くのキャンパーおよび、学生ボランティアカウンセラーとの交流と研修を実施した。阿南市椿町小・椿泊中・椿中学校の生徒約70名との交流会にて、ゲームや阿波踊りなどで国際交流を行った。
徳島ゾントクラブ	12月	インターナショナルナイト	留学生を招待して交流

○留学生交流事業

平成26年度交流事業

主催団体等名	実施時期	事業名	事業の概要
徳島大学	不定期	日本文化体験	日本文化・企業見学旅行(12月)、留学生スキー旅行(1月)
	7月、1月	ホームステイ・ホームビジット	留学生が日本の家庭を訪問し、日本語による会話を通して日本の文化や慣習を体験する。
	不定期	地域の小学校・高校訪問	留学生が地域の学校を訪問し、日本文化を共に学んだり日本語で自国の文化を紹介し、自国の遊びと一緒に学んだりする。また英語による同様の活動も実施している。
	11月	多文化体験交流会	徳島大学大学祭において留学生、日本人学生及び地域住民との交流会
	11,12月	研修旅行	徳島の現在と伝統を日本人学生らとともに学ぶ。
	3月	外国人留学生の卒業・修了を祝う会	卒業・修了予定の留学生と教職員等との交流懇談会
鳴門教育大学	6月	国際交流親睦パーティー	留学生と大学院生、学部生、教職員との交流会
	7月	鳴門第二中学校(国際交流集会)	生徒と留学生の国際交流
	10月	イングリッシュ・キャンプ	鳴門市の小・中学生と留学生の交流
	10月	三島小学校(英語ワークショップ)	児童と留学生の国際交流
	11月	城西高校(国際交流活動)	生徒と留学生の国際交流
	12月	林崎小学校(国際交流集会)	児童と留学生の国際交流
	平成26年10月～平成27年1月	外国青年と小学生の国際交流活動	鳴門市小学生と本学留学生の国際交流学習会
四国大学 四国大学短期大学部	随時	留学生面談会	生活及び進路相談、近況報告
	随時	イングリッシュ・ランチ	留学生と日本人学生が昼食時に英会話で交流
	随時	チャイニーズ・ランチ	留学生と日本人学生が昼食時に中国語で交流
	随時	中国セミナー	留学生が留学予定の日本人学生に異文化・学生生活について紹介
	8・9月	外国人留学生実地見学	日本事情の実地見学・研究用資料の収集等
徳島文理大学 徳島文理大学短期大学部	4月	新入生歓迎懇談会	留学生及び国内離島等出身の学生に対し、学園理事長主催で、歓迎懇談会を開催し、懇親を深めた。
	5月	徳島文化研修	徳島キャンパスで受け入れている留学生9名と、台湾からの交換留学生9名に対し、徳島文化研修を実施した。鳴門満の道、霊山寺、藍染体験、阿波踊り会館など6ヶ所を訪問。
	9月	香川文化研修	徳島キャンパスで受け入れている台湾からの交換留学生5名と、香川キャンパスで受け入れている韓国からの交換留学生4名に対し、香川文化研修を実施した。栗林公園、うどん打ち体験、金比羅宮などを訪問。
徳島工業短期大学	4月	留学生歓迎昼食会	留学生の来日を歓迎する会
	4月	研修旅行	留学生と邦人学生相互の交流(淡路ファームパーク)
	6, 11, 1月	留学生誕生日会	留学生の誕生日を祝う集い
	9月	研修旅行	留学生と邦人学生相互の交流(USJ)
阿南工業高等専門学校	4月	花見	新たな留学生を迎えてのお花見会
	5月	研修旅行	留学生とチューターが共に日本の歴史・文化を体験する旅行(京都)
	6月	阿南市国際交流協会総会	留学生と国際交流担当教員が、地元の国際交流協会の総会に参加
	7月	国際理解教室及び手打ちうどん作り教室への参加	地元の小学生に留学生が出身国の遊びを紹介。小学生と共にうどん作りも体験(那賀川公民館主催)
	7月	阿波踊り講習会	阿南市国際交流協会主催の阿波踊り講習会に参加
	11月	阿南高専蒼阿祭	阿南高専の文化祭に参加
	11月	ミカン狩り	地元の方の協力を得てミカン狩りを体験
	11月	防災研修	徳島県国際交流協会主催の防災研修に参加
	12月	四国地区高専総合文化祭	国立高専四国総合文化祭に参加し、留学生コーナーで自国の地理や文化について紹介
	12月	ホームステイ	阿南市国際交流協会の協力を得てホームステイ体験
	1月	New Year's Day Party	National Institute for Young Education主催の新年会に参加
1月	New Year Party	阿南市国際交流協会主催の新年会に参加	

各国際交流団体の事務局所在地

団体名	事務局所在地	連絡先電話
(公財)徳島県国際交流協会	徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6階	088(656)3303
徳島市国際交流協会	徳島市新蔵町1-88	088(622)6066
小松島市国際交流協会	小松島市横須町1-1 小松島市役所内	0885(32)2191
阿南市国際交流協会	阿南市向原町天羽畷103-1 西野建設(株)内	0884(44)6652
北島町国際交流協会	板野郡北島町中村字上地23-1 北島町役場内	088(698)9801
徳島ユネスコ協会	阿南市富岡町今福寺49-2 河内順子様方	090-1573-4555
国際ソロプチミスト徳島	徳島市中洲町2-20-1 曾木充代様方	088(625)5654
徳島中央ロータリークラブ	徳島市仲之町3丁目27番地6号 エムエフビル1F	088(626)1700
徳島YMCA	徳島市新町橋2丁目29-1 蔵本ビル1階	088(626)0035
徳島ゾンタクラブ	徳島市一番町3-16-3 阿波観光ホテル内	088(622)5161

交流風景

徳島県国際交流協会



日本語弁論大会



阿波おどり



防災センター・スタディツアー



ホームステイ・ホームビジット

徳島ゾンタクラブ



インターナショナルナイト

徳島工業短期大学



留学生歓迎昼食会



留学生誕生会



留学生遠足

徳島大学



多文化体験交流会



研修旅行(祖谷)



日本文化・企業見学旅行
:コカ・コーラ京都工場

徳島大学



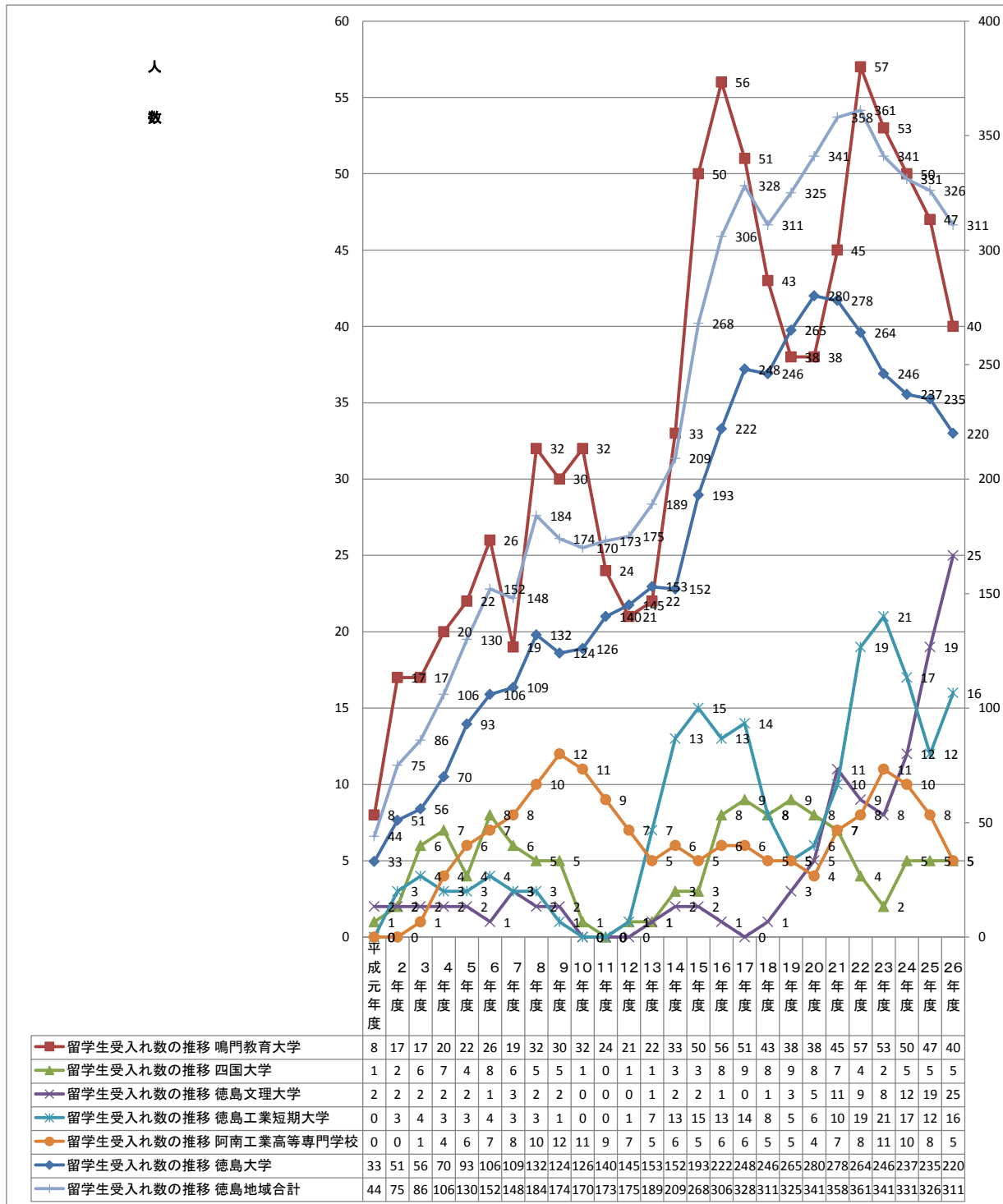
日本文化・企業見学旅行
:清水寺



スキー旅行

○徳島地域の外国人留学生受入れの現状

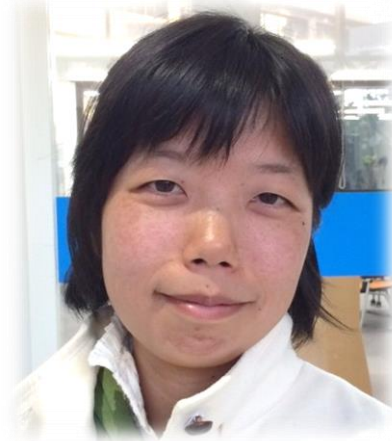
1 留学生受入れ数の推移



2 出身国・大学等別の留学生数

(平成26年10月1日現在)

国・地域		国立大学		私立大学		私立短期大学			高専	合計
		徳島大学	鳴門教育大学	四国大学	徳島文理大学	四国大学短期大学部	徳島文理大学短期大学部	徳島工業短期大学	阿南工業高等専門学校	
アジア	中国	101	25	5	3			10		144
	韓国	7	1		11					19
	台湾	10	3		9					22
	マレーシア	25						1	2	28
	インドネシア	10	1							11
	バングラデシュ	9								9
	ベトナム	10					1	4	1	16
	インド	2								2
	ネパール	1	1							2
	モンゴル	23							1	24
	タイ		3					1		4
	スリランカ	1								1
	カンボジア								1	1
ラオス	1	2							3	
中近東	イラク	1								1
	イエメン	1								1
	シリア	1								1
ヨーロッパ	スウェーデン	3								3
	クロアチア	1								1
	ポーランド	2								2
	ポルトガル				1					1
	スペイン	1								1
アフリカ	エジプト	1								1
	ウガンダ	1								1
	エチオピア	1								1
	モロッコ	1								1
	ケニア	1								1
	ギニア	1								1
北米	アメリカ合衆国	1	1							2
	カナダ	1								1
中南米	エルサルバドル		1							1
	ブラジル		1							1
	ホンジュラス		1							1
	ペルー	1								1
大洋州	ツバル	1								1
合計		220	40	5	24	0	1	16	5	311



徳島への想い

鳴門教育大学
大学院学校教育研究科 2年

ユウ シン 村
游 申 芳 台湾

いつの間にか、鳴門に二年間住んでいる。二年間は短い、案外様々なことを体験した。

まず、台湾の道には、車やオートバイが沢山あるので、街がいつも賑やかである。しかし、鳴門は、昼なのに、主要道路以外、あまり人や車が見当たらず、街はとても静かだということに対し、非常にびっくりした。ところが、このような鳴門は、住めば住むほど「スローライフ」を認識させられる。自然だらけなので四季の移り変わりを感じられ、海に囲まれているので毎日海を見放題であり、それほど高い建物が無いので素敵な夕焼けを眺めることができ、街灯が少ないので夜空の星や月がはっきり見え、一緒に寝るのは波の音と虫の鳴き声であり、朝は、目覚まし時計で目を覚ますのではなく、漁船の音で目を覚ます。鳴門こそ、こんなに特別で、素晴らしい生活ができる街である。

しかし、鳴門はいつもこのような静かな雰囲気ではなく、八月になると、徳島・鳴門の気温と人の気持ちがともに熱くなる。その理由は阿波踊りである。徳島・鳴門の代名詞である阿波踊りは、徳島・鳴門の夏を一層熱くする。そして、徳島・鳴門の人々の性格は、馴染みの阿波踊りのように、柔らかい中に、強さがある。私はこのような徳島・鳴門の人が好きである。卒業すると、徳島から離れるかもしれないが、どんなに遠くても、この二年間の想いととも、ずっと私は徳島と繋がっている。

充実した日本での留学生活

鳴門教育大学
教員研修コース

アレハンドロ ヘルナンデス ピネダ
Alejandro Hernández Pineda

ホンジュラス



私はホンジュラスからの留学生です。昨年 10 月に徳島に来ました。私が関西空港に着いたとき、何をすればいいかわかりませんでした。しかし、初日から日本人の友だちができたのです。バスに乗っているあいだ、きゆうに後部座席から若い女の人がスペイン語で私に話かけてくださいました。それから徳島駅に着いたときホテルに泊まることを手伝ってくれました。日本で最も難しい問題は言語とと思いました。日本人とはじめておしゃべりしたときにはぜんぜんわかりませんでした。最近日本人の話すことがだんだんよくわかるようになりました。今授業中、先生と話すときには日本語で自分の意見が言えるようになりました。徳島はきれいで、非常に便利な、近代的な技術と古代都市の組み合わせとして多くの美しい景観を持っています。夏休み中に私は広島へ新幹線で広島平和記念館と広島平和記念資料館を見に行きました。それに大阪で観光することができたり、いろいろなおもしろい所に遊びに行ったりしましたから、大阪も大好きです。ホンジュラスと日本では、ちがうことが多いですが、日本にすんでいるあいだ私は日本について多くの面白い事を学びました。文化や教育や食物や日常生活です。とくに、面白かったことは侍の歴史です。そのほかにも大学では日本文化の活動に参加し、折り紙、うどん打ち、書道（漢字）、着付け、生花、ちょんかけごまなどが体験できました。私は来年の 3 月に帰国することになっています。帰国するまでもっともっと徳島で楽しみたいと思っています。



一期一会の留学経験

四国大学

文学部日本文学科 3年

リュウ ケイエキ
劉 馨懌 中国

時間が飛ぶように過ぎて、いつの間にか、徳島に来て8ヶ月が経過した。帰る日がだんだん近づいて、寂しさが溢れてきている。振り返って、素晴らしい体験がいっぱいだと思い、残った日々を大切にしたい。異文化との出会い、サバイバル（日本での生活体験）への挑戦、学園の温もりなどは、心底揺り動かされた。

日本は真面目な国だ。ルールは皆が守るために作ったものであり、決して飾り物ではない。皆はスケジュールに従って、お互いを思いやり、他人に迷惑をかけないように行動する。そして、日本人は情熱が溢れている民族だと思う。お盆とか花火大会などの盛大なお祭りに、皆はそろって歌ったり踊ったりして楽しんでいる。生活を心から愛している気持ちが私には強く伝わってきた。仕事には一意専心に行い、休みには心ゆくまで遊ぶというスタイルは非常に魅力的である。

日本に来て初めて生活費を稼ぎ、自分で生活を管理した。これまで親の世話になっていた私は、大学の近くでパートをやり、稼いだお金で買い物をしたり、調理をしたりして収支のバランスがとれるように工夫し、自立して生きていく力を養った。また、日本人の女性は毎日綺麗にして元気よく新しい一日を迎える。私も限りがある時間をより良く過ごしたい。将来に対する不安や苦しみを切り抜ける勇気を手に入れた。

四国大学では、自由と平等の中で個々の個性を尊重するという学風を感じた。皆は興味ある活動に参加して喜びに浸っている。芳藍祭の時、ドラムを叩く学生の無我夢中の表情を見て、また、青春の澆刺とした力が溢れる踊り子の姿を見て、私は快活な風に身を任せながら、魂が奪われるほど感動した。私は自由な雰囲気にもまれて、読書に没頭したり、物思いに耽ったりして、この上ない楽しみをたっぷり味わっている。A先生の授業中、「各自が自分の楽しみを獲得しなければならない。それどころか、努力を重ねて自分自身から楽しみを引き

出さねばならない。」という言葉が理解できた。これからも、ずっと自分自身の楽しみに努力を続けます。

学習は、単なる知識を得ることではなくて、血肉になって力になることだと思う。包容できる考え方、自立して未来に対する勇気、自分の特性からの自信という姿勢は日本と四国大学から学んだ知識です。B先生の「いろいろ経験しなければ立派な人間に成れない。」という教えを心に刻み、こういう力を持って、未来に向かって歩いていく。

徳島との出会い

四国大学

文学部日本文学科3年

リュウ ヨウ
劉 容 中国



時間の経つのは速いもので、徳島と出会ってからもう半年経ちました。初めて徳島に着いた時、青い空やきれいな道路、静かな町などが一番印象的でしたが、それだけではなく、徳島に魅了されたものは数え切れないほどあったと思います。

最初、わざわざ空港まで私達を迎えに来てくれた国際課の皆さんや、学校に着いたとき、先生や寮母さんたちと学生さん達はずっと待っていていました。徳島人の優しさに感謝の気持ちがいっぱいです。赤の他人でも、迷った時、助けてくれた優しい日本人にもよく会いました。学校や生活についてもいろいろなことで助けてくれて、皆のおかげで、ここでの生活は何の不自由もありません。学校にはサークルも多くて、私は阿波踊りの部活に入りました。だからこそ、徳島県の伝統的な文化の魅力がしみじみと感じられました。八月のお盆祭りは私にとって一生忘れられないことだったと思います。踊り子として、みんなの声援や拍手を聞きながら、長時間踊った疲れも忘れてしまって、最後まで踊りました。本当に楽しかったです。今後もしチャンスがあれば、また阿波踊りのお盆を体験したいと思っています。中国へ帰っても皆に阿波踊りの魅力を紹介します。日本人の友達と一緒に浴衣を着て屋台のたこ焼きを食べながら、

花火を見たり、コンサートを見たりすることも最高です。また、徳島県には外国人向けの活動もたくさんあります。そのために、私の留学生活は更に充実したものになりました。例えば、徳島県国際交流協会のおかげで、私は徳島県外国人日本語弁論大会に参加させていただきました。いろいろな外国人のスピーチを聞いて、外国人の友達もできて異文化の楽しさも感じることができました。私は徳島県の外国人として本当に幸せだと思います。



徳島に留学して体験、感じたこと

徳島文理大学

保健福祉学部人間福祉学科 1年

スウメイ
鄒鳴

中国

私は、鄒鳴（スウメイ）と申します。中国大連市から来ました。

初めて日本に来たのは2年前で、最初は岡山県の日本語学校で1年半日本語を勉強しました。日本語学校を卒業した後、今年の4月に、徳島文理大学に入学しました。

私は、日本に来る前は日本についてあまり知りませんでしたが、岡山にいる間、日本の成人式に参加したことがきっかけで、日本の文化に興味を持つようになりました。

もっと日本の文化を知りたいと思った私は、徳島文理大学に入学した後、早速、大学の阿波踊り連に入部しました。練習は、毎週2回、授業が終わった後に行われます。連の皆さんはとても親切で、時々日本のことや徳島のことについて教えてくれます。昔の徳島は「阿波」と呼ばれていて、藍染の商売でとてもにぎやかな町でしたが、科学文明の発展につれて、どんどんコストの安い原料に変わり、藍染の価値が下がってしまったと聞きました。

今年の夏、私は「文理連」の一員として、阿波踊り本番に初めて参加しました。祭りでは、年輩の人や、若者、子供がみんな一緒になって、楽しそうに踊っていました。ものすごい迫力があって、とても賑やかな祭りでした。阿波踊りは400年ほど前に始まって以来、現在までずっと地元の人々に引き継がれて

いると知り、日本人は、地域の伝統文化を大事にする人々だと改めて思いました。

私の母国の中国は、多くの地域文化は、お年寄と共に土地の中に埋まれてしまうといわれています。これからは、日本を見習って、大切な地域の古い文化を残していかなければならないと強く思っています。

これからこの素晴らしい徳島の地で、たくさんの人に出会って、日本のいろいろな文化に触れあって、充実した留学生活を送りたいと思います。

意外な徳島

徳島工業短期大学
自動車工業学科 1年

キョ シンカン
許 誠瀚 中国



事実は小説よりも奇なり、そんな言葉があって、それは僕が徳島に着いた時の感想です。

僕は中国からの留学生ですが、過去に親の仕事の都合で、東京に3年滞在していました。そして、人生初大学がまさか徳島になるなんて思ってもいなく、完全に予想外でした。今から一年前まではカナダで高校に通っていて、その半年前は北京で出稼ぎをしていました。そんな中、僕は徳島工業短期大学に入学して、新たな暮らしを始めました。過去に東京で3年暮らしたから、徳島県での生活は完全に別世界な日本でした。

徳島と言われても・・・、最初は阿波踊りしか知らず、自分がしる日本が東京でしかなかったため、ここも日本と言われても、そんなに実感が沸かなかったです。四国だけあって、ここはいい天気恵まれて、気候も温暖で、徳島は自然が多くて、学校周辺は山と田んぼで、巨大な神木がある神社とか、処処にいる、野良猫とか、たまに山から降りてくるお猿さんにも会えるのです。ここに来て一番驚いたのが、電車が走ってなかったことです。駅も無人駅に近いほどの過疎で、毎時間の本数も少なく、そして特急に乗るのにも別料金とか、東京からの常識ではとても考えられないほど交通が不便でした。逆にいつしかそんな日常になれると、たまに東京に戻ると、徳島のノロノロ走るワンマン電車

もほのぼのとした風景が思い出になります。

今の僕は市内のワンルーム一人暮らしです。一人暮らしは初めてだが、そんなに大変だと思いません。日本にはコンビニがどこにでもありますし、家の側に 24 時間営業のスーパーまで有るのが驚きで、ほぼ毎日お世話になるぐらいです。休日は家でのにんびり暮らしています。そんな時は料理でご褒美に限ると思い、和風や洋風、中華も作ります。日本のスーパーの豊富な品揃えで、ほぼ作れない料理もないと思うほどです。そんな中で日本の諺で、働かざるもの食うべからず、と言いまして、今は徳島駅前のそごうのユニクロで働いています。人生初のバイト面接も日本ならではの緊張感でいっぱいでした。さすが日本の職場であって、挨拶や接客用語の事を頭にいっぱい叩きこまれました。一応都会なのに、そんなに人も居ないし、自転車でもう駅周辺の繁華街を全て回れるほどの便利な大きさと、小さいですが、贅沢を言わなければここでとても豊かに生活ができます。

自分は小さいころから機械類が好きで、成長に連れ、だんだん車に異常な興味を惹かれて、それにこの学校は四国で唯一の自動車の専門短大で自分にとっては打って付けです。学校生活も順調で、最初の入学式の印象は、皆髪を染めている、怖い日本の学生としか見えなかったけど、タバコを吸っていて、話かけると案外普通の男の子で、すぐにクラスにとけこみました、友達もたくさん出来て。毎日の会話が楽しいです。

忙しい勉強やバイトや楽しい生活と共にたぶんこの 2 年間は、振り返ればすぐにすぎると思います。でも、その中にのどかな風景やのにんびりライフがまたあり、振り返るとさらに一層楽しい留学体験になると思います。ここで体験した生活と勉強は自分自身の成長の礎になり、社会にでるときの大切な経験になると思います。



阿南での生活

阿南工業高等専門学校

電気電子工学科 5 年

ム ハ マ ド イザット ビン ラジム
MUHAMMAD IZZAT BIN LAZIM

マレーシア

私は 2012 年 4 月 1 日に日本へ初めて来ました。日本へ来る前に、私は阿南工業高等専門学校を第一の希望をしました。先輩からいろいろ阿南高専の事を聞きましたが、どんなところかまったく想像できませんでした。しかし、きっと楽しく過ごすことができるだろうとずっと思っていました。母国で私は大きい町に住んでいたのですが、阿南市もおそらくそういうところかと思いましたが、実際に来てみると、残念なことに田舎でした。だから、これからどうやってこんなところで生活していくのか少し困りました。特に、食べ物のことは最初に悩みました。

日本へ来たばかりのころは、友達は何人も居ませんでした。そこから私はクラスの中で皆に声をかけてみました。しかし、問題なのは話をしようとする、なかなか友達の言うことが理解できませんでした。初めて聞いたとき、これは標準的に使われる日本語ですかと私は混乱しました。それで、解決するために、クラスメイトに聞きました。何故違うかと聞くと、ここはほとんど皆阿波弁で話しているからと答えました。それを聞いて、びっくりしました。聞き慣れるまでに何ヶ月間もかかりました。わからないときは、すぐ友達に聞きました。今は 100 パーセントではなくてもだいたい意味がわかってきました。

阿南市は最初の印象は町が小さくて不便だと思いました。しかし、いくつかほかの高専に比べると、意外に高専は阿南の町から近くてたくさん店が並んでいます。特にスーパーは最近コスモスとイオンビッグができて、前以上にたくさんものが手に入れられるようになりました。最もよい点は高専の近くにある見能林駅のことです。徳島市内に行くならその駅を利用しますが、阿南高専から歩いてすぐのところにあり便利です。多分どこの高専も、こんなに近くに駅はないと思います。阿南高専の近くには海もあります。私は子供のころよく

海へ遊びに行きました。だから、私は海が大好きで、海岸に行って海の景色を見ると、気分がよくなり、波の音を聞いたら、落ち着くことができます。

ここは、春になると、どこでも桜が見られます。初めて来たとき、国際交流室の先生が留学生を花見に連れて行ってくれました。初めて桜の花を見て本当に感動しました。こんなきれいな花をずっと見たいと思っていました。母国で日本語の先生が桜の写真を見せてくれた時、これはきっと来年見に行きたいと私は希望しました。おかげさまで私の夢が叶いました。次に、8月になると徳島で阿波踊りが毎年行われます。このイベントは日本で最も有名で毎年千万以上の方が訪れます。大変なのは汽車です。普段汽車は一本だけですが、阿波踊りのイベントは四日間連続で人がいっぱいです。特に夜に行ったらとても燃え上がります。来年は時間があつたらまた行きたいです。夏の次は10月に入ると、秋になります。この辺は紅葉が見られますが、京都ほどではありません。しかし、ここはコスモスの花が咲いて本当にきれいです。普通は近所の人たちの家の中でだけ見られますが、今年はここに近くの広い畑でたくさんコスモスが見られました。11月の末になると寒くなり、冬になります。ここは冬になってもなかなか冬の感じがありません。なぜならば、私のイメージは冬というと雪のことです。しかし、残念ですが、ここは雪がほとんど降りません。降るのは降りますが、本当に少なくて積りません。けれども、今年の1月に珍しく大雪が降って、少し積りました。でも、雪が積もってもすぐに溶けました。この冬はただ寒くて風が強いです。風がなかったら寒さはあまり感じませんが、一瞬風が吹くととても寒くて目も痛くなるほどです。

食べ物といえばここはうどんがおいしくて最高です。東京に行ったとき向こうのうどんを食べて比べたらこのほうがうまかったです。特にスープが香川県または徳島県の方は味がちょうどよくてうまいです。私は来年福井の大学に進学しますが、福井に住んでも、もしうどんを食べたくなったら、徳島に戻って来ます。

最後に、私はここで三年間生活し、山ほどたくさん思い出ができました。ここに全部の思い出が書けなくても頭の中では一切忘れません。嬉しい事も悲しいことも全部を通して私はつよくなり、成長してきました。ここは私の夢をかなえる出発点です。これからの私の人生はもっとうまくいくだらうと思います。

阿南での生活

阿南工業高等専門学校
機械工学科 5年

モ ハ マ ド ア ミ ル ビ ン サ レ ウ
MIHAMAD AMIR BIN SALEH

マレーシア



「諦めずに自分の力を信じよう」、これは日本での3年間の留学生活から学んだ一番重要なことだと思います。外国での生活はいろいろつらいことがあったとしても自分で努力し、競争し、自分の道を自分で切り拓くことが大事です。

日本に来る前、高校を卒業し、マレーシアの大学で2年間ぐらい日本語を学びました。その後、阿南工業高等専門学校に留学し、今3年目になりました。マレーシアで日本語を学んだとき、日本語をあまり使っていなかったのので、ここに来た最初の半年間は本当に辛かったです。先生や友達と話しているときも、いつも「意味が分かりません」とか、「それはどういう意味ですか」とよく口にだし、なかなかうまく会話ができませんでした。このような挫折があった時、私は常に「今の自分はいったい何ができるのか」などと悩んで、自分の夢ややる気をなくしてしまっていました。しかし、そんなときはチューターや学校の先生がいつも、がっかりしている私を励ましてくれました。心から感謝しています。それから私は、恥ずかしがらずにできるだけ日本人と交流し、人の話を聞き、そして自分の意見を言い、心のバリアを取り払いました。国際交流活動も、絶えず参加することで、自分の知らない間に日本語が上達し、日本人の友達もできました。本当に嬉しかったです。

自分を信じる前提は、人を信じることだと思います。日本に来てから、母国で知ることのできなかつた日本を知ることができました。確かに、マレーシアと日本を比べると、文化も違うし、食べ物も違うし、風俗や宗教も違うのですが、3年間の留学生活で、人間としての優しさと強さはマレーシア人にとっても日本人にとっても、同じ大切なものだと感じました。人の気持ちを理解すること、人と寄り添うこと、人を温かく受け入れることなど、学校や地域の人からもたくさん感じるすることができます。

この3年間、私は成長しました。独立心だけじゃなく、生活の仕方、価値観、いずれも変わりました。社会に出る前の早い段階で、多様な価値観、文化を学ぶこと、自分の暮らしと世界の間を学ぶ必要があります。将来に向けて自分の道は自分で切り拓いていきたいと思います。



徳島でいっぱい思い出ができ、ありがとうございます。

阿南工業高等専門学校
機械工学科5年

グ エ ン ア ン ト ャ ン
NGUYEN ANH TUAN

ベトナム

私は2011年3月ベトナムから成田国際空港に来て留学生活を始めました。1年間東京で日本語を勉強してから、阿南高専に編入するため2012年3月に徳島に引っ越しました。東京で住んでいた国際寮や日本語学校では、主に留学生と接してばかりで、日本人の日常生活や習慣がほとんど分かりませんでした。阿南に来たばかりのとき、どういう風に3年間日本人と生活するかわちょっと心配になってしまいましたが、今この3年を振り返ってみると、そんな心配は必要ありませんでした。なぜなら、ここで私は豊かな生活を送り、いい思い出を共に作ってくれた人がたくさんいるからです。

まず、阿南高専の国際交流室の先生方はいつも私の面倒を見てくれます。いろいろな書類を書くことから病気にかかった時まで、困った時にすぐ助けてくれますのでとても安心です。それから、ある日本語の先生は熱心に教えてくれ、毎日忙しいですが、いつでも何でも私のお姉さんのように相談に乗ってくれます。機械工学科の先生方は大変素晴らしい日本のものづくりの精神性を勉強させてくれます。優しいチューターがいて、いつも私の部屋に来て授業や日本語の難しいところをしっかりと説明してくれます。部活を通して親友になった汽車が大好きでとても活発な友達も、日本の汽車について面白い話をしてくれます。二人とも旅が好きで一緒に日本にもベトナムにもあちこち素晴らしい旅行をし

ました。ある日本人の夫婦は私を自分の子供のようにして、ホームステイさせてくれたり、お祭りやイベントにつれて行ってくれたりします。あるお好み焼き店のお祖母さんからいつもジュースと美味しいみかんをもらいます。また、阿南市国際交流協会や徳島県国際交流協会が行うイベントでいろいろな人と出会って話を聞いて、自分の視野を広げることができました。長く住むほど徳島の人々は本当に温かいと感じます。私は家族と離れて留学していますが、ここでより大きな家族を見つけました。何十年か後に、有名な阿波踊りの雰囲気や徳島ラーメンの美味しさ、または紅葉が綺麗な祖谷山の景色は覚えていられないかもしれませんが、皆さんのことはいつまでも忘れません。皆さんいつもありがとうございます。皆さんはいつも元気でいてくださいね。

徳島とのご縁

徳島大学

医科学教育部博士課程 4年

ドン ピンズ
董 冰子 中国



徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報内科の董冰子と申します。日本に来て、もう3年になりました。振り返ってみると、徳島に最初に来たときの思い出がよみがえってきます。

子どもの頃、徳島に留学したことのある父親から、阿波踊り優秀賞の旗や踊り子の竹細工などをよく見せてもらっていました。そんな私にとって、徳島は見知らぬ土地ではありませんでした。でも、まさか自分もここで新しい人生をはじめるとは思っていませんでした。本当に不思議に感じます。関西空港から四国に来る途中、青空の下でそびえ立つ鳴門大橋と透けるような青い海を見て、徳島に一目惚れしたことを覚えています。

私が所属している医学部と大学病院は市の中心部から離れているので、生活はとても静かで穏やかです。小さな蔵本駅から朝金色に輝いている商店街を歩くと、花屋さんのおばあさんの笑顔があり、パン屋さんのお姉さんの「お

はよう！」という声が聞こえ、私の一日が始まります。大学病院は眉山のそばにありますから、私の研究室の窓から美しい景色が見えます。春には満開の桜を見ながら、仕事を楽しんですることもできます。夏には浴衣を着て阿波踊りや花火大会に行き、秋にはきれいな紅葉を楽しみ、冬には友達と鍋を食べたり梅酒を飲んだりします。最高に幸せな瞬間です。

日本は「がんばっている」社会と言われます。先生方の夜遅くまで一生懸命働いておられる姿を見て、感動の気持ちがこみ上げてきます。私も研究熱心な先生方からご指導を頂き、研究や勉強に一生懸命取り組み、私なりに成長しています。「がんばって！」と励まされると、苦しいことも乗り越えることができます。毎日、研究者として、そして医師として努力を惜しむことなく、私の決めた道をまっすぐに歩んでいます。

出張や旅行で県外や海外から徳島へ戻ってきたとき、私の場所に帰ってきたんだと思い、ほっとします。「ただいま、徳島！」。そんなとき、徳島は私にとって「第二の故郷」なんだと実感します。

来年、徳島大学での勉強が終了し、徳島を離れる予定です。今でもそのことを考えると、胸が痛くなります。徳島で先生方や地元の親切な方々にお世話になって、本当に貴重な経験を得ることができました。また、様々な国の友達と知り合うこともできました。このことはきっと私の一生の宝になると信じています。徳島への感謝の気持ちを持って、これからも歩んでいきたいと思います。



私の日本での生活

徳島大学

工学部知能情報工学科 3年

ヌルル アジラ ビンティ アブデウ アジズ
NURUL AZIRA BINTI ABD AZIZ

マレーシア

徳島大学工学部知能情報工学科3年のアジラです。マレーシアから来ました。2015年3月で、日本へ来てから4年になります。最初の3年間は岡山県津山市にある津山高等専門学校で勉強し、そのあと徳島に

来ました。

日本に来て困ったことは、お金についてです。日本のお札はマレーシアのもの比べてサイズが大きく、私の持ってきた財布に日本のお札が入りませんでした。買い物をするときには、日本円とマレーシア・リングットの為替レートの計算がよく分からず、買いたいものが高いのか安いのかよく分かりませんでした。マレーシアの先輩に助けをもらいながら買い物をしたことを覚えています。

日本へ来たときに印象深く感じたのは、お客に対するサービスのすばらしさです。タクシーの運転者さんがスーツを着ているのは不思議でした。マレーシアのタクシーの運転手は制服ではなく、普段着で運転しています。コンビニの店員さんもととても礼儀正しく、驚きました。そして、コンビニがどこにでもたくさんあり、本当に便利なことも感心しています。日常で使うものが売られているだけでなく、バスのチケットの購入やオンラインショッピングの支払いもできて、マレーシアのコンビニとは全く違うものでした。

津山高専情報工学科を卒業し、徳島大学に3年次編入しました。徳島大学へ受験のために来たとき、徳島は津山より都会だなと感じました。徳島大学に入学したときには、新しい環境になって少し怖く感じたのですが、今ではマレーシア人や日本人だけでなく、さまざまな国からの友だちがたくさんできて、楽しい大学生活を送っています。また、今年の夏に大学のサマープログラムに参加したとき、初めて阿波踊りを見ました。とてもきれいな動きで、見ていて楽しい気持ちになりました。

卒業まであと1年あまりとなり、大学での勉強はだんだん難しくなってきましたが、一生懸命がんばりたいと思っています。でも、勉強だけでなくいろいろな交流活動にも積極的に参加して、日本人のことや日本の文化をもっと学んで、徳島でたくさんの良い思い出を作ろうと思っています。